



press release

2018年11月9日

朝日新聞

朝日新聞 DIGITAL

朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

〈報道関係のみなさま〉

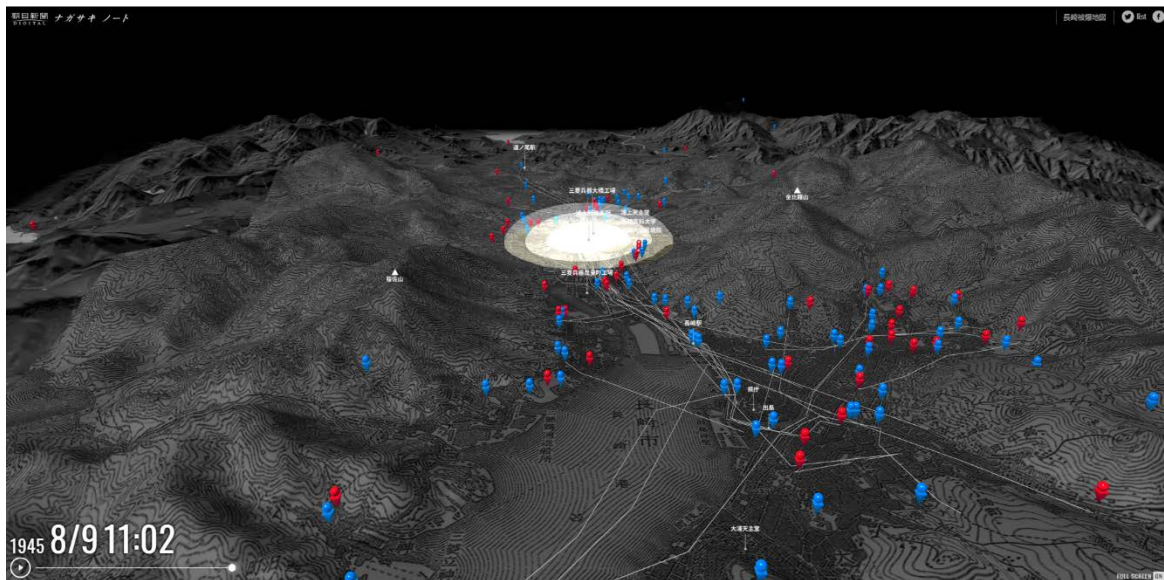
日本メディアとして過去最高 「ナガサキノート あの日、人々の足取り」「GRIM」が 2018 アジア・デジタル・メディア賞で銀賞受賞

朝日新聞デジタルの特集「ナガサキノート あの日、人々の足取り」が、8日に発表された世界新聞・ニュース発行者協会(WAN-IFRA)の選ぶ2018年のアジア・デジタル・メディア賞で、データビジュアライゼーション部門の銀賞を受賞しました。また、同じく朝日新聞デジタルの特集「GRIM」がライフスタイル・スポーツ・エンターテインメント部門で銀賞を受賞しました。

受賞作品のサイトのURLは以下の通りです。

「ナガサキノート」 <http://www.asahi.com/special/nagasakinote>

「GRIM」 <http://www.asahi.com/paralympics/2018/grim-narita>



「ナガサキノート」は、被爆者の人生を聞き書きする朝日新聞長崎県内版の長期連載を元に、原爆が投下された1945年8月9日から10日の間、爆心地付近にいた被爆者の足取りを3次元(3D)の地



〈お問い合わせ〉
朝日新聞社 広報部
TEL 03-3545-0131(代表)



press release

2018年11月9日

朝日新聞

朝日新聞

DIGITAL

朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

図に再現しました。「GRIM」は、平昌パラリンピックのスキーボードで金メダルなどを獲得した成田緑夢選手の歩みやその強さを、360度動画や写真、記事などを組み合わせて伝えました。

コンテンツの制作は、朝日新聞メディアプロダクションの「クリエイティブチーム」が担当しました。いずれの作品も、優れたデザインやメディア技術などを効果的に活用し、多角的に報じる手法が高く評価されました。アジア・デジタル・メディア賞の銀賞受賞は、日本メディアとしては過去最高です。

8日夕、香港市内で開かれた授賞式には、「ナガサキノート」から西部本社報道センター（前長崎総局）の山野健太郎、「GRIM」からデジタル編集部の入尾野篤彦両記者が制作担当者を代表して出席しました。山野記者は「連載は10年を超え、3500回以上を数えた。テクノロジーにより、被爆者の当日の動きを再現することで、より多くの人に理解を深めてもらえたのではないかと述べました。また入尾野記者は「障害者だからではなく、金メダルの有力候補が本当にかっこいいアスリートであることを伝えたい」と制作の動機を語りました。

>

contact

〈お問い合わせ〉
朝日新聞社 広報部
TEL 03-3545-0131(代表)